

学校プロジェクト報告書（1年目）

学校名	新潟小学校
校長氏名	山田 浩之

1 学校紹介

新潟小学校は、児童数 470 名ほどの中規模校である。校区は、古町・本町などの繁華街や日本海を臨む自然豊かな地区など特色にあふれており、子どもは恵まれた環境の中、教育活動に取り組んでいる。その中でも、地域素材を活用した教育活動が盛んで、「地域が学校」を合言葉に活動を推進している。

2 実践テーマ

<テーマ> 地域プライドを育てる持続可能な教育課程の改善

テーマ設定の理由

当校では、伝統的に地域素材を活用した実践を重ねてきた。しかしながら、それらの開発から 20 年近くを経て、以前ほど教育効果が上がらない実践も見られる。また、働き方改革が求められる中、教員の過重な業務によって実践が進められているものもあり、持続可能な教育課程となるよう見直しが必要な時期にきている。そこで、教育課程を見直すにあたり、学校運営協議会における協議・検討を取り入れ、これまでの活動をさらに充実させたり、新しい魅力的な地域素材を開発したりすることとした。改善された実践を通して、子どもの地域への思いを掘り起こし、自らの地域のプライドを高め、ひいては地域の活性化へとつなげていく。さらには、新潟中心部を校区に抱える当校の取組が「新潟 2 km」など新潟都心のまちづくりの推進の一助となることも期待できることから、このテーマを設定した。

3 実践内容

令和 6 年度に日本生活科・総合的学習教育学会新潟大会が、新潟市で行われる。当校は、その大会において授業公開を含む実践を公開する。この大会を契機として、主に生活科と総合的な学習の改善を図る。その際に、学校運営協議会内で当校の実践や教育課程案の説明を行い、教員とは異なる視点で協議を行い、地域素材の新たな活用を探る。併せて東京大学准教授の一柳智紀様や文科省教科調査官の齋藤博伸様、文科省教科調査官の小倉勝登様を招き、当校の実践と教育課程の改善について指導をいただき、教育課程の改善を進める。

令和5年度 新潟小学校 第4学年 年間指導計画（1学期）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
総合	総合的な学習の時間【1】		総合的な学習の時間【2】		総合的な学習の時間【3】		
国語	国語の基礎的な能力の育成	国語の基礎的な能力の育成	国語の基礎的な能力の育成	国語の基礎的な能力の育成	国語の基礎的な能力の育成	国語の基礎的な能力の育成	国語の基礎的な能力の育成
社会	社会科の基礎的な能力の育成	社会科の基礎的な能力の育成	社会科の基礎的な能力の育成	社会科の基礎的な能力の育成	社会科の基礎的な能力の育成	社会科の基礎的な能力の育成	社会科の基礎的な能力の育成
算数	算数の基礎的な能力の育成	算数の基礎的な能力の育成	算数の基礎的な能力の育成	算数の基礎的な能力の育成	算数の基礎的な能力の育成	算数の基礎的な能力の育成	算数の基礎的な能力の育成
理科	理科の基礎的な能力の育成	理科の基礎的な能力の育成	理科の基礎的な能力の育成	理科の基礎的な能力の育成	理科の基礎的な能力の育成	理科の基礎的な能力の育成	理科の基礎的な能力の育成
	総合的な学習を中心とした教育課程						

4 成果と課題

5月に一柳准教授をお招きし、当校の実践についてご指導をいただいた。探究的・協働的な学びの視点から学校全体の教育活動をいかに推進するかについて有益なご示唆を受けることができた。11月には、齋藤調査官をお招きし、当校の実践および生活科・総合的な学習を中心とした教育課程についてご指導をいただいた。地域と学校をつなぎ、子どもの力を伸ばす教育課程の在り方について適切な助言をいただくことができた。12月には、小倉調査官をお招きし、さらに教育課程の改善についてご指導いただく予定である。



また、7月に子どもたちの地域への思いをアンケートで調査した。「地域学習への関心」の項目で肯定的評価が 85%。「地域の方とのふれあい」の項目で肯定的評価が 83%であった。12月に改めてアンケート調査を行い、変容を考察していく。

学校運営協議会においては、当校の生活科・総合的な学習の時間の実践について説明し、協議を図った。地域と学校がよりよい協働が図れるようにと委員から建設的な意見が出された。